

3 評価委員の意見に対する対応

これまでの事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応状況を下記のとおり区分して示します。なお、前年度の事務点検・評価報告書で区分「○」と示したものについては記載を省略します。

区分	説明
○	意見に対する取組を実施しているもの。
△	意見に対する取組みについて検討しているもの。
×	未対応のもの。

(1) 学校教育分野

ア 令和3年度事務点検・評価（対象期間：令和2年度）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
2-1 豊かな心の育成	「読書習慣のある児童生徒の割合」は調査学年で全てやや増えているが、冊数は減少と考察がある。子どもたちにとって学校図書館は読書をするきっかけともなる身近な存在である。蔵書、施設設備の充実を引き続き行い、授業での活用ともつなげる等、様々な本に触れる機会を継続していくことが必要であろう。	研修会において、公共図書館との連携や古い本等の適切な廃棄と計画的な購入について説明し、児童生徒のよりよい読書環境の整備について促しました。また、読書習慣や読書量の向上に向け、各学校で取り組むように魅力ある学校図書館運営委員会の充実を図ります。 (教育指導課)	○
4-1 安全・安心な教育環境の確保	「学校安全に関する教育の充実」では感染拡大の影響もあり大幅に減少しているが、避難訓練等は継続することで意識化につながることであるので、現状でどのような形であれば実施が可能か実施モデルなど具体的な説明をしていくことも必要だろう。	避難訓練については、災害の種類や発生時の状況について、様々な避難の仕方や対応が考えられます。そのため、年に2～3回行う避難訓練の実施内容について検討し、計画的に実施していくよう周知するとともに、管理職の研修や安全主任会で、実施可能な方法や事例等を示して参ります。 (保健体育課)	○
5-1 教職員の資質・指導力の向上	教員の研修環境では「特別支援教育研修の充実」には新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止が重なり遅れが見られる。この状況はもうしばらく続く可能性があることや、教員の働き方改革ともあわせ、研修をオンラインで実施したり、あるいは選択できるような方法の検討も必要ではないだろうか。	「特別支援教育研修」について、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の発令に伴い参集研修は中止とし、一部研修について書面にて実施しました。令和4年度は、教育センターと連携しオンラインで実施するとともに、参集とオンラインとを選択できる研修を実施する体制を整えます。 (養護教育センター)	○

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
5-2 「チーム学校」の実現	<p>（専科指導のための非常勤講師の配置について）授業時間だけではなく、担任教員や校内の教員らとの児童の情報を共有したり、授業準備を行ったりする時間なども含めて、余裕をもった適切な時間設定となっているか、今一度確認をする必要があるだろう。また情報を共有する時間を各教員らの努力のみに任せるだけではなく、常勤、非常勤の別なく定期的に情報共有の場を校内で設けることも重要だろう。</p>	<p>専科指導のための講師の任用にあたっては、授業時間に加えて授業準備や評価の時間を保証して勤務時間を設定するようにしています。</p> <p>実際の受け持ち授業時数は、効果と併せて調査する予定です。</p> <p>（教育職員課）</p>	○
6-2 いじめや不登校の未然防止と早期発見・解消	<p>課題としては、スクールカウンセラーの勤務時間の制限もあり、教職員間での打ち合わせの難しさが挙げられる。多くの学校ではカウンセラーは週 1、2 回の勤務になるため、相談後どのように担任教師が対応するか、児童生徒にどのように変化があったか等、教職員間での情報共有や継続での支援が難しい状況もある。（中略）校内での情報共有の方法など好事例を市内学校間で共有できるようにしていくことも全体の質を高める一助になるのではないだろうか。</p> <p>勤務時間数については、相談件数や相談内容、連携の重要性をふまえると十分とはいえない。相談時間だけではなく校内教職員間での検討や打ち合わせをする時間も含め週 2 回程度、それぞれ短時間ではない時間数の確保が必要ではないだろうか。教職員間の連携は児童生徒の相談内容の解決にも大きく関係すると言える。</p>	<p>年間 3 回実施しているスクールカウンセラー連絡会議において、研修や情報交換等を行い、管理職及びスクールカウンセラー間の情報共有や連携について、各学校の好事例等を共有しています。対応に迷う事案が発生した際に必ずスーパーバイズが受けられるよう、スクールカウンセラーを支援する体制を整えています。</p> <p>また、スクールカウンセラーの配置時間について、相談のための時間と、教職員間の連携のために必要な時間の確保に向け、引き続き、配置時間の拡充を検討していきます。</p> <p>（教育支援課）</p>	○

(2) 生涯学習分野

ア 令和2年度事務点検・評価（対象期間：令和元年度）

施策		評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
2-2	市民ニーズに対応した学習機会の提供	<p>（放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業について）地域格差や保護者の不平等感を払拭するためには、できるだけ速やかに事業を拡大することが望まれる。事業者選定にあたっては、地域のニーズに応え、子どもが居場所として安心して楽しく過ごせる内容を提供できるよう、教育的な資質・能力を持つ人材を有する点などを考慮に入れることが肝要になろう。</p> <p>（中略）放課後の時間にあっても、振り返ったときに、懐かしく楽しい良い思い出となる時間でありうるよう内容の充実について鋭意検討していただきたい。</p>	<p>令和3年度、令和4年度は、6校ずつ拡充しました。令和5年度は、拡充のスピードを早め、10校拡充に向けて準備します。また、令和4年度中に放課後子どもプラン（第2期）を策定する予定です。利用者に対するアンケート等による評価を行うとともに、事業者や関係部門と意見交換を行うなど、今後の事業のあり方について検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（生涯学習振興課）</p>	○

イ 令和3年度事務点検・評価（対象期間：令和2年度）

施策		評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
1-1	生涯学習の普及啓発	<p>今後も、社会の変化にアンテナを張り、市民の学習ニーズを丁寧にすくい上げ、事業企画に反映していくことが望まれる。</p>	<p>市民を対象としたアンケート調査や各講座実施後の受講者アンケートにより、学習ニーズの把握を行っています。これにより、生涯学習センターでは、令和3年度新規テーマとして「男女共同参画」、「グローバル化」、「人権」、「平和教育」、「科学」に関する講座を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">（生涯学習振興課）</p>	○
1-2	学習環境の整備	<p>専門職性を高めるために自ら研鑽を積み自己啓発に努めるとともに、組織においても積極的に職員の研修、教育を推奨することが期待される。</p>	<p>千葉県生涯学習センター職員と公民館職員を対象とした社会教育・生涯学習に関する研修を年6回行っています。また、職員の社会教育主事資格取得者の増加を図るため、積極的に講習に職員を推薦しました。</p> <p style="text-align: right;">（生涯学習振興課）</p>	○

施策		評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
2-1	郷土への愛着を深める学習機会の提供	<p>（千葉県立郷土博物館について） 限られたスペースではありながら、立地などにも恵まれ、気楽に立ち寄れる施設であることの利点を最大限に利用し、子どもが自ら訪れ関心を抱くような企画・展示に一層工夫をされることを期待したい。</p> <p>また、同時に成人向けの学習プログラムの充実も期待したい。わかりやすいブックレットなどの作成は、学校教育の副読本としての価値のみならず、歴史好きの市民にも関心を持たれるものであろう。公民館での講座も実施されているようだが、成人市民の学習活動により一層寄与していただきたい。</p>	<p>令和3年度の市制100周年を記念した特別展「高度成長期の千葉—子どもたちが見たまちとくらしの変貌—」は、当時の子どもたちの作文等を切り口に時代像を探るという展示で、現代の子どもたちにも共感を持って歴史を理解してもらえる内容としました。また、パネル展や小企画展に合わせてわかりやすいブックレットを作成したほか、公民館や各種団体からの依頼に応じ、講師として40回講座等を実施しました。</p> <p>（文化財課）</p>	○